

日中農協の動向と課題に関する研究

—経済発展とグローバル化における協同の展望—

【目次】

はじめに

序章

第1章 協同組合について

第1節 協同組合とは

第2節 協同組合運動の始まり

第3節 協同組合の目的・定義・価値

第4節 協同組合の国際的組織・課題

第2章 日本農協について

第1節 日本農協の始まり

第2節 農協組合員の特殊性

第3節 多様な農協事業

第4節 日本農協の特徴（まとめ）

第3章 わが国の経済成長期の特徴

第1節 高度経済成長期のわが国の様子

第2節 高度成長期の農業・農村・農協

第3節 経済成長による倫理観の喪失

【目的】

20世紀を振り返れば、そこには戦乱を交えた各国の驚異的な経済発展があった。また、その中で独自の経済社会が形成されてきた。そして21世紀、こうしてバラバラになった国々が喪失したものが「協同の精神」である。特に、弱肉強食社会がもたらしたグローバル化経済への移行は利益優先の競争社会を加速させ、人々に与えた代償は大きいと言える。本論文では、経済発展後の日本の農協を中心とした「協同組合」の意義と動きを理解した上で、今後は中国も同様の過程を歩むであろう「協同組合組織化」に注目し、その過程と現状、課題を把握することで、21世紀の協同組合の新たな可能性を日本と中国間における「農業協同組合」という視点から考察した。

【方法】

第1に、日本を中心とした「協同組合の動き」を整理すると同時に、協同組合の意義や理念について文献を用いて調べた。第2に、日本農協の発展・衰退を整理した。第3に、中国農協の経過を整理した。最後に日中両国の「農協の可能性」の展望について模索した。

【結論】

わが国の経済発展とグローバル化がもたらした「協同の精神」の欠落は、結果的に日本の農業・農民を瀬戸際へと追い込んでしまった。しかし、中国が日本に学び協同化を推進している背景からは「協同の優位性」を再確認できる。両国が、基本に立ち戻りつつ、失敗と成功をもとに互いに協力し合いながら新たな協同組織を構築し、世界に発信していくことが21世紀のよりよい協同社会、そして農業・農村・農民の保護へと繋がっていくのである。

【参考文献】

海野一行『それでも農協は死なない』文芸社ビジュアルアート、2006年。

神門喜久『日本の食と農—危機の本質』NTT出版株式会社、2007年。

河野直践『協同組合入門』創森社、2006年。

小久保武夫『よみがえれ心豊かな農協運動』家の光協会、2003年。

白石雅彦 東京農業大学教授 日本農業新聞 2007年、6月25日、7月2日、11日、16日、23日、9月24日付8面。

日本農業新聞『JAのページ』2007年7月16日付8面。

大田原高昭 朴紅（パク・ホン）『リポート中国の農協』家の光協会、

白石和良『農業・農村から見る 現代中国事情』家の光協会、2005年。

藤田泉『中国内陸の農業農村構造』筑波書房、2002年。

阮 蔚（ルアン・ウエイ）『WTOと中国農業』筑波書房、2003年。

資料；『社会実情データ図録』

『JA 佐賀厚生連ホームページ』

第4章 高度経済成長期の農協

第1節 戦後の農協と行政との関わり

第2節 高度経済成長と農協

第3節 農協の正当性の消失

第4節 農協の地域組合化路線

第5節 1990年代以降の農協の変容

第6節 グローバル経済への農協の対応

第5章 中国の農協について

第1節 いよいよ農協始動へ

第2節 農協の実態・状況・組織・事業・運営方針

第3節 農業貿易と農業産業化

第4節 農協の直面する課題

第5節 日本の農協を模範にする中国

第6節 中国から学ぶ日本農協の反省点

第7節 グローバル化・競争社会の協同組合の役割

結章 日中農協の明日への扉